

中山道：野上ー関ヶ原宿ー今須宿



今須宿 (関ヶ原宿から一里)

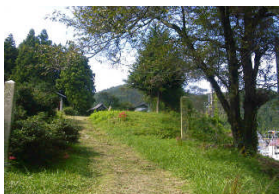
関ヶ原宿から今須峠を越えると西の眼下に広がる町並みが今須宿である。10町55間細長い、これは山と川に挟まれた地形による。古書によると慶長7年(1602)に宿場が設けられた宿は東町、中町、西町に分かれ中町が中心問屋場が7ヶ所あったという。豪雪地帯であり宿運営は厳しかったようだ。

今須の地名由来

今須城主長坂重景の母妙応は年貢の取り立てには大升を用い米を返すときは小升を用いた。つまり異升を用いたことから生じたと言う。

関ヶ原宿 (垂井宿から1里14町)

古くから伊勢神宮への参拝路、長浜、越前への北国街道の分岐点、また桑名から揖斐川、牧田川の水路から関ヶ原經由近江、米原の陸路の通過と交通の要衝であった。樹形はないが坂とゆるいカーブで見通しを遮っている町並みは12町49間と美濃路では加納宿に次ぐ大きな宝暦10年(1760)、寛政8年(1796)大火に遭っている。このため復旧が十分出来なかったのが大名はじめ通行人の泊まりが減り極度の経営危機に陥った。また古戦場あるため幕府役人の上覧が度々ありその費用もばかにならず経営の負担は大きかった。



車返しの坂



問屋



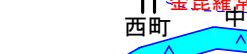
妙応寺



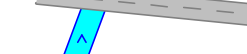
妙応寺



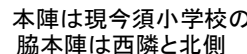
妙応寺



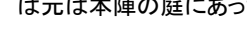
妙応寺



妙応寺



妙応寺



妙応寺

車返しの坂

伝説、文明の頃(1469)不破の関の館が荒れ、屋根から洩れる月がなんと風情があると聞きつづ月をよと京の二条良基がやってきて館の屋根が葺きかえられた事を聞きここで牛車を引き返したとか。
"ふきかえて月こそらぬ板庇とくすみあらせ不破の関守"

寝物語の里

義経が奥州へ落ちて行く後を追ってきた静御前が近江側の宿に泊まった。隣(美濃側の宿)から聞こえる声は家臣に違いないと尋ねると江田源蔵行義であり隣の宿と寝ながら夜通し話したと言う。義朝を追った常盤御前との説もある。

平治の乱に敗れ逃れる牛若丸を追って東国に下る途中ここで土賊に殺される。

常盤御前の墓

天下御踏石

青坂神社

妙応寺

問屋跡(山崎家)

金毘羅常夜燈

本陣跡(学校)

今須宿

今須川

名神高速道路

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川

今須川



妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺

妙応寺



黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

黒血川

不破の関跡

壬申の乱後天武2年(672)設けられた越前の愛発(あらち)、伊勢の鈴鹿の3大関所の一つ、延暦8年廃止となる鎌倉時代は関守がおかれ旅人と荷物に関税がかけられた。

家康最後の陣跡

脇本陣跡



不破の関跡